

## ベトナム保健省 HIV/AIDS 予防局訪日

薬剤耐性 HIV ウイルス対応ナレッジブック作成も最終段階！

(2024 年 1 月 3～6 日)

2024 年、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。プロジェクトに残された期間もあと約3か月、ラストスパートが続きます。

今回は保健省 HIV/エイズ予防局(VAAC)HIV 治療室の専門家2名を日本に招聘し、プロジェクトが各方面の専門家と共に現在編纂している「薬剤耐性 HIV ウイルス対応に関する Knowledge book」(ナレッジブック)完成に向けた作業を行いました。2023 年 3 月に作成作業をスタートさせたこのナレッジブック(第 1 回会合の様子は[こちらを参照](#))、日本とベトナムの専門家同士の度重なる専門的議論を経て、ようやくドラフトを最終化できました。今回はプロジェクトチーフアドバイザーの岡慎一・国立国際医療研究センター(NCGM)エイズ治療・研究開発センター(ACC)名誉センター長を始め、ACC の先生方とひざを突き合わせ、細かなところまで内容を詰めていきました。加えて、プロジェクトの成果・活動を踏まえてまとめ中の政策提言に関しても意見交換を行うことができました。

二日間の濃密な議論を経て、ナレッジブックは概ね完成し、いよいよ出版・製本に向けた段取りに進むまでに至りました。VAAC の二人は非常に熱心に取り組んで頂きました。



NCGM・ACC 岡先生、田沼先生、JICA 高山職員に参加頂き、ナレッジブックと政策提言につき多岐にわたりインテンシブに議論しました。



細かい書きぶりや表現なども厳しくチェック。こういった作業はやはり対面で進めることで効率よく進みます。

更に今回訪日の機会に、VAAC 側皆さんのリクエストもあり、日本の特定非営利活動法人「[akta](#)」事務所を訪問しました。akta は、アジア最大のゲイタウンともいわれる新宿 2 丁目に事務所を構え、同地区に多く集まる LGBTQ+ の人たちに対して、HIV 予防啓発と支援の両面の重要性を踏ま

えた活動を行っています。お話を聞かせて頂いた代表の岩橋恒太理事長からは、2003 年から続いてきた akta の活動が今では地域に根付いてきて「当初は嫌がられたコンドーム配布などの活動も、今では新規開店があるとバーの人たちが自ら進んで参加しに来るようになった」と、活動の発展と手応えをシェアしてくれました。また、アジア各国で同じような活動を行っている団体・関係者ともネットワークを築いているなど、日本に留まらない活動の広がりも紹介してくれました。



akta の活動を熱心に説明頂いた岩橋理事長(写真右)



今回の交流を機会に、在日ベトナム人に対するのサービスも更に拡大することを期待！

説明を聞いた保健省 VAAC の二人は、akta の活動にとっても関心を持ったようでした。ベトナムでも NGO の活動はとても活発で、HIV 検査や PrEP(曝露前予防内服)が NGO で提供されることもあります。ただ、外国からの支援に依存するところは多く、それらを今後どう自立して維持していくかが課題となってくるそうです。

特に岩橋さんがベトナム語で検査や PrEP を説明する資料を見せると大変感銘を受け、日本にいるベトナム人にも akta の支援が提供されていることに感謝の意が寄せられました。加えて「今後彼らがベトナムに戻る際に役立つよう、ベトナムの PrEP に関する情報などを akta から提供してもらいたい」と、とても前向きな姿勢がありました。今回訪問をアレンジした甲斐があり、プロジェクトとしても akta、VAAC 双方の参加者に感謝しています。

プロジェクト期間も残り少ないですが本招聘の成果を最大限活かしていきます。